



第24回日本骨粗鬆症学会 ハイブリッド開催

現地会場 + Live配信・オンデマンド配信

ランチョンセミナー **2**

日時・会場

9.2 2022
FRI
12:00-13:00

第2会場

大阪国際会議場 10F 会議室1001



骨粗鬆症の最近の話題

～BAPを含めた骨代謝マーカーの重要性～

Recent Topics in Osteoporosis ～Significance of Bone Turnover Markers Including Bone Alkaline Phosphatase～

座長

三浦 雅一 先生

北陸大学薬学部
北陸大学健康長寿総合研究グループ
北陸大学地域連携センター

演者

中村 幸男 先生

信州大学医学部 整形外科

本会共催セミナーに関するご案内は学会HPをご覧ください。

第24回日本骨粗鬆症学会

検索

日本整形外科学会の1単位が取得できます。

・専門医資格継続単位 必須分野：4.代謝性骨疾患（骨粗鬆症を含む）

共催：第24回日本骨粗鬆症学会／ヤマサ醤油株式会社／バックマン・コールター株式会社



骨粗鬆症の最近の話題 ～BAPを含めた骨代謝マーカーの重要性～

Recent Topics in Osteoporosis ～Significance of Bone Turnover Markers Including Bone Alkaline Phosphatase～

中村 幸男 信州大学医学部 整形外科

現在、我が国における骨粗鬆症患者数は約1250万人である。骨粗鬆症ベースの脆弱性骨折、特に大腿骨近位部骨折数は年々増加しており、我が国の寝たきりの主要な原因となっている。従って日常臨床において、寝たきり原因第一位の大腿骨近位部骨折を引き起こす骨粗鬆症の病態、病状把握は重要である。骨粗鬆症の病態、病状把握を行うにあたり、骨代謝マーカーの上昇は骨折予測因子になり骨密度検査 (BMD) と独立した骨折の危険因子であるため、非常に有用な検査である。骨代謝回転を評価することで治療の有用性、骨折抑制効果を把握するのに役立つ。骨代謝マーカーの測定時には、1. 早朝空腹時に検体採取を行う、2. 骨折発生時には24時間以内に評価する、3. 急激な生活習慣の変化や測定機関の方法の違いなどを考慮する、が原則とされる。

骨代謝マーカーは大別すると骨形成マーカーと骨吸収マーカーに分かれる。骨形成マーカーとして骨型アルカリホスファターゼ (BAP) とI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP) がある。また骨吸収マーカーとして酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b) を中心に、コラーゲンの分解産物であるI型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTX) とI型コラーゲン架橋C-テロペプチド (CTX) などがある。特にBAPは食事や腎機能低下の影響を受けにくく日内変動が小さいというメリットがある。

骨吸収マーカーは基準値以上であれば骨吸収抑制薬を選択する。異常高値の場合は骨粗鬆症以外の骨代謝疾患の考慮が必要である。

昨今、テリパラチドやデノスマブ、イバンドロネート、ロモソズマブなど新たな骨粗鬆症治療薬が認可され、治療薬選択の幅が広がるとともに、生活習慣病との関連や続発性骨粗鬆症に関する知見が増加してきている中、我々はテリパラチドやデノスマブ、ロモソズマブ投与に伴う早期からの骨代謝回転における効果など多くの報告を行ってきた。

本講演では、原発性、続発性骨粗鬆症 (ステロイド性含む) 患者における骨代謝マーカー、特にBAPの最新データを含めた成果をご紹介します。